

イシモチソウ *Drosera peltata* Smith var. *nipponica* (Masamune) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい食虫植物である。

【形態】

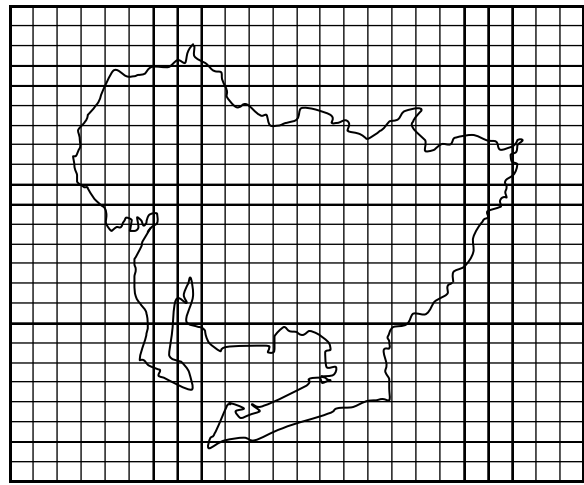
食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10～30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10～15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4～6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5～6 月、茎の先端のまばらな総状花序に、2～10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6～8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯(小林 37116)、小原(日比野修 2800)、藤岡(塚本威彦 1537)、豊田北西部(畑佐武司 4227)、三好(臼井里華 476)、岡崎南部(芹沢 52179)、瀬戸尾張旭(芹沢 75733)、日進長久手(近藤洋一郎 8320)、半田武豊(芹沢 61652)、常滑(芹沢 55093)、知多南部(芹沢 77365)、春日井(芹沢 55314)、名古屋北部(鳥居ちえ子 1313)、西三河と尾張の丘陵地に点在するが、東三河では極めて稀で、1カ所に少数の個体が生育しているだけである。豊橋南部(大清水町, 小林 16724, 1977-6-5)、幸田(六栗～桐山, 大原準之助 s.n., 1960-5)、豊明東郷(桶狭間湿地, 瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14)、東海知多(東海市加木屋町, 岡島錦也 157, 1977-8-19)、名古屋南東部(天白, 井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121)などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球(西表島)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

主要な生育地が尾張、西三河の丘陵地であるだけに、かなりの自生地に開発が迫っている。豊明市では、廃棄物処分場として谷が埋められ絶滅したという。湿地の踏み荒らしにより消滅した例もある。その一方で、里山の利用停止に伴う遷移の進行も懸念材料である。園芸目的の採取も深刻で、たくさんの掘り跡が残されていたこともある。市町村誌などではっきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないと思われる例もある。

その一方で、名古屋市などの一部の湿地では、市民グループ等の手でももとはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだと言われる。

【関連文献】

保草 p.167、平草 p.121、SOS 旧版 p.54、環境庁 p.464、SOS 新版 p.111,113。